

幼稚園での「困った子」への対応の試み

横井小児科内科医院 横井 透

金沢大学教育学部附属幼稚園

大久保英哲 池田三津子 渡辺 誓代

日本ポーターズ協会 出村 正栄

文部科学省の調査によると、知的発達に遅れはないが、学習面か行動面で著しい困難を示す児童生徒の割合は6.3%にもものぼる。これらの児童生徒は、普通の授業を受けることはできず、失敗経験を繰り返し、教師の力量によっては学級崩壊の一因となる。しかし、これらの子供たちは、学校へ入ってから急に症状が出るわけではない。幼稚園、保育園で、すでにいわゆる「困った子」として取り扱われている。園の保母や教師は子供たちの状態が十分に把握できず、対応法がわからないため、子供たちは失敗し、叱られ、自分に自信のない状態で卒園し、一人の教師が多くの子供たちを指導する小学校へと進学していく。

これらの子供たちを保育園や幼稚園の段階で鑑別診断し、特徴を理解し、環境や対応法を整備することで、子供たちは自信に満ちた、楽しい毎日を過ごすことができるようになるはずである。この鑑別診断と指導は医学的な知識を持ち、育児指導のできる園医の仕事である。高機能自閉症、ADHDをはじめとする軽度発達障害の可能性もあり、この場合、医療に結びつける必要がある。また、不十分なしつけと指導、教育が原因のこともあり、この場合は、対応を変えることで、子供は驚くほど変わっていく。時間をかけて園の子供たちの観察をし、園の職員と対応を協議し、その上で保護者と話し合いを持つことが必要とされる。しかし、かなりの時間と労力を必要とし、園医の仕事としては時間的に難しい。

そこで、園医として日本ポーターズ協会の指導員に依頼して子供たちの観察と幼稚園での対応法の指導を試みた。6月9月10月の半日ずつ3回、登園時から午後2時までの子供たちの観察と教師、保護者との懇談である。

ある年長の園児の例では、お友達に手が出る・服をひっぱる・止めてもパンチし続ける・先生に対する口ごたえ・忘れ物が多い・動きが激しくチョロチョロとじっとしていられない・口数が多い・悪ふざけをするという訴えがあった。多弁で理解力もあり行動力もある園児で、年齢相当のことは充分にできると思われていたが、観察により、今までできると思われていたことでも運動の協調性が悪いためにできないことが多く、そのごまかしのために問題行動を起こし、その結果しかられるという失敗体験を繰り返していたことがわかった。園でもこの状態は予想外で、保護者と話し合い、ADHDも否定できないため専門機関に受診して頂くと同時に、園内では基本的な動作を手をとって一つ一つ教えてあげることを行い、うまくいったら褒めるという成功体験の積み重ねの努力を行った。数ヶ月しか経っていないが、最近は、隣の子を押したりすることは少なくなり、教師からの話の中断に対しても自分で口を押さえて、動きを止めようとするが見られた。教師の指示に言い返すことも見られなくなった。表情が穏やか

になり、悪びれた感じがなくなった。小学校に進学する前に、この園児の特性と関わり方がわかり、幼稚園で指導できたことは意義深いと思われた。

第三者が幼稚園に入ることは異論があるかもしれないが、園医が充分に子供たちを観察できない現状では、園医と療育の専門家がチームを組んで子供たちを観察し、園の職員や保護者と話し合っていく事は子供たちの楽しい生活のために重要だと思われる。

幼稚園での「困った子」への の 対応の試み

横井透¹、大久保英哲²、池田美津子²、渡辺誓代²、出村正栄³

1 横井小児科内科医院
2 金沢大学教育学部附属幼稚園
3 日本ポーター協会

知的発達に遅れはないものの
学習面や行動面で著しい困難を示すと
担任教師が回答した児童生徒の割合

学習面か行動面で著しい困難を示す	6.3%
学習面で著しい困難を示す	4.5%
行動面で著しい困難を示す	2.9%
学習面と行動面ともに著しい困難を示す	1.2%

「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する全国実態調査」2002年2月から3月にかけて実施 調査結果

軽度発達障害の症状 2

- ・話しかける人の目を見ないで話をする
- ・手先が不器用だったり、運動が苦手で、外で遊ばない
- ・漢字の読み書きや、文章の理解力が弱い
- ・絶えず動き回り、落ち着かない
- ・他人の都合は無視して、自分の言いたいことをしゃべる
- ・ゲームのルールを理解するのが苦手だが、負けるのは非常にくやしがる
- ・場所に関係なく自分の世界に入り込み、ひとりごとを言ったり喜んだり、奇声をあげる
- ・知的発達に遅れはないが、他の子と比べると行動が少し違う
- ・何回教えても、順番を待つことができない

以上の状態の数項目が該当し、それが6ヶ月以上続いている。

困った子→しつけ? or 病気?

- ・自信のないことには参加しない
- ・1番になりたいという欲求が強い
- ・筆の持ち方がわからない
- ・友達の名をひっぱる
- ・噛み付く
- ・物の取り合いなどで手が出る
- ・友達を押したり叩いたりする
- ・加減がわからない(上に飛び乗る)
- ・先生に対する口ごたえ
- ・指示に従わない
- ・口数が多い
- ・玄関から入ってこない
- ・一人の教師にまとわりつく
- ・忘れ物が多い
- ・悪ふざけをする
- ・教室に入らない
- ・落ち着きがない
- ・動きが激しくチョロチョロとじっとしてられない
- ・友達に対して自分から働きかけられない
- ・一人遊びが多い
- ・こだわりが強い
- ・トイレの自立がおそい
- ・言葉の遅れ
- ・服を自分で着ようとしにくい

軽度発達障害

- ・LD (学習障害)
- ・ADHD (注意欠陥/多動性障害)
- ・PDD (広汎性発達障害)
 - ー高機能自閉症
 - ーアスペルガー障害
- など

困った子への対応

- ・観察
- ・問題点の把握
- ・軽度発達障害等の鑑別 → 医療への連携
- ・評価と対策
- ・具体的な指導、教育
- ↓
- ・ネットワークの利用
- ・ポーター指導員 出村さんの協力

軽度発達障害の症状 1

- ・授業に短時間しか集中できず、先生の話をおろそかに手遊びなどをする
- ・忘れ物が多く、整理・整頓が苦手
- ・知らないおじさんとか歩いているおばあさんとか、どんな人でも気軽にあいさつしたり親しそうに話しかけたりできる
- ・自分の空想世界がおもしろくて、ひとりごとを言って楽しむ
- ・言いたことがなかなか言えず、自分がもどかしくて思わず怒る
- ・人ごみが苦手で、その場から逃げる
- ・知らない子でも一緒に遊んで名前を言い合っているのに、名前を聞くと「知らない人」とか「だれかわからない」と答える
- ・いつも決まってする遊び以外は、興味が無い
- ・同じ質問をくり返したり、どんどん突っ込んだ質問をし続ける

ポーターとは?

アメリカ合衆国・ウィスコンシン州、ポーター市で誕生した早期発達教育プログラムです。34ヶ国の言語に翻案され、90ヶ国近くの国で使用されています。

【理念・特徴】

さまざまな発達に遅れや問題のある子供達の為の家庭中心のプログラムをそれぞれのニーズに合わせて行っています。すこやかな成長と自己実現、日々の生活の安定と広がりを目指して、ご家族の方と共に歩んでいきたいと願っています。

【対象】

0歳～小学生（発達年齢6歳位まで）のポーター・プログラムを必要とする子ども及びその家族

【療育活動】

- (1) 乳幼児からの早期療育を行います。
- (2) ポーター・プログラムを用いて、具体的な個別指導計画を立て、個々の家庭における子どもへの援助の方法を相談。
- (3) 保護者と話し合い、「社会性」「言語」「身辺自立」「認知」「運動」「乳児期の刺激」における日常生活での工夫や指導の仕方を提案します。
- (4) プログラムの実施における調整を出来るだけ細かく行い、継続的に子育てを応援します。

【費用】

家庭訪問 1回 4,000円、教室1回 3,000円、年会費 3,000円

症例1（年長組、男児）の症状

- ・お友達に手が出る
- ・服をひっぱる
- ・止めてもパンチし続ける
- ・先生に対する口こたえ
- ・忘れ物が多い
- ・動きが激しくチョロチョロとじっとしてられない
- ・口数が多い
- ・悪ふざけをする

観察報告 9/12

- ・目立つものだけでも三回トラブルがあった。運動会のリズム体操の様子から感覚統合上の問題が見られた。
 - －大きな動きは出来るし、やる気もあるが左右対称でない動きや手と足をバラバラに動かすものと真似が出来ないことが何度もあった。走るのも速く、バランスも良いが、統合することが苦手のように見えた。
 - －うまくいかない、友達と手があたったりしてトラブルや八つ当たりが始まる場面もあった。

対応報告 9/12

- ・ADHDの不注意による運動の苦手さも考えられるが、とにかく本人の努力だけの問題ではないように思えると、園に伝えた。
- ・園から、保護者へのお話を依頼され母親と面談した結果、家では園以上に困っていた。
「もう限界です。子育てに自信がなく、いなくなって欲しいと思うこともあります。もう、子供について行けません。」
- ・園もそこまで家で大変だったとは知らなかったとのことである。

対応報告 9/12

- ・母親への提案
 - －動きの苦手さや粗暴は運動の問題と考えられるため、感覚統合のリハビリを受けてみることを勧めた。
 - －「多動ですか？」との質問に対し、その可能性もあるが、検査ではっきりすることと、そうであってもその子の個性を発揮出来るように工夫して育ててゆけば良いことを話した。療育センターの感覚統合療法をお知らせした。
- ・担任の教師に具体的な接し方のアイディアを伝えた。

教師による対応と結果

- ・対応
 - －動きたい場面では手をそっと押さえて、動きを止めた
 - －身辺のことなど出来ない細かなことに注目し、手を取って教えた
 - －じっとしていなければいけない場面では、手を膝や足に付けることを促した
 - －必要に応じて、補助の教諭が入り本児の隣にすることにした
- ・結果
 - －制止に応じられるようになり、自分で口を押さえて、我慢するようになった
 - －友達に手を出すことはまだしばしばあるが、1/3になった感じがする

母親から 10/21

- ・日常で本児が出来る細かなことを実践した。
 - －引き出しにステッカーを貼って置き場所を示したり、出来たらシールを貼って誉めることもしている。
 - －姉を非難するようなことを言った時などは5分間正座させるようにした。
 - －今は本人が言ったことに気が付いて、自分でしまったという顔をするようになった。これまで叱っていたことに腹が立たなくなり、うまく出来なくてもやりたがることは、やらせることにした。（タマネギの皮むきなど）
- ・療育センターに通った。障害を持った人を母も子も接したことがなく、戸惑ったが、とても良いことだと感じた。検査で出来ると思っていたことが出来なくて、驚くこともあった。
- ・幼稚園で丁寧に見て貰い、感謝している。
- ・悪いことばかりすると叱ってしまっていたが、本児の見方を変えることが出来た。
- ・もう少し、早く気が付いてやれば良かったと思う。

経過報告 10/21

- ・行事について集団での話し合いの場面で、他者の意見を聞いて自分の意見を言う。
- ・常に、集団の話し合いの中に入って参加している場面が見られた。
 - －前の真ん中の方に座り、見上げるようにして担任を見ている。
- ・時々、隣の子を押したり、先生に話を聞いて欲しくて「ねえねえ先生、先生」と状況に合わずに連呼する場面もあるが、以前見られたような執拗に行うことは観察されず、先生からの話の中断に対しても自分で口を押さえて、動きを止めようとするが見られた。以前担任の指示に言い返すことが見られたが、今回の観察時には見られなかった。表情が穏やかになり、悪びれた感じがなくなったことが印象的だった。

考察1

- ・本児は多弁で理解力もあり行動力もあるため、できないことがあることに周りが気が付きにくかったようである。
- ・できないことを隠しごまかしたり、相手のせいにすることがトラブルの元でもあったようだ。
- ・注意欠陥に問題があるかもしれないということ、周りの大人が本人の苦手さ、運動の協調性が悪いこと（例えば、お弁当の包みが開けられない等）に気づくことで、具体的支援が提供され、肯定的に本児を見ることが出来るようになった結果、本児は大人の指示に従えるようになり、誉められることが増えた。

- 児を育つための支援を待
- 本児の育つための支援を待
- 本児の育つための支援を待

- 症候
 ・入園
 ・てい
 ・お集
 ・言葉
 ・手遊

- ・入園
てい
- ・お集
言葉
- ・手遊

- 他者に対し
集団に対し
人に物を分
人から物を

人からの物

「牛乳ほい
げて答
手遊び」
が見ら
他児の行
る。
ノンバー
からかい
る

「牛乳ほし
げて答
手遊び・歌
が見ら
他児の行な
る。
ナンバー
からかい
る

興味がない
実習生
高いとこ
に膝を
他者に
見られ
りの時
母のと
「鞆と峠
先生より
がる

興味がない
実習生
高いところ
に膝を
他者に
見られ
りの時
母のと
「鞆と帷
先生より
がる

所見

- ・ 全体的
- ・ 母や先
- ・ 人へ自
- ・ 言葉で
- ・ 思われ
- ・ 意味の

家で育ち、
いるよ
出来た

- この体のせいで、Yを動かし
- 全Yを動かす。

この体のせいYを動し
す。全のまYを動し

- ・ 観察
- ・ 特に
- ・ ジチエ
- ・ その
- ・ 行
- ・ 必要
- ・ 合

- 観察
- 特にジェンダー
- その行
- 必要

- 女性に合ったYシャツを
今夏を思

- 今後が明るいYとあるのに、
- 今を思

- 105 —

症例2 報告10/21

- ・Kが奇声をあげて走り回るのがYが真似をしている。
 - 奇声の場面はお集まりの後のお帰りの用意の時
 →行動の流れを変えることを薦める
- ・お帰りの当番さんのような役割を作ってベルを鳴らすとが笛を吹く等、音を立てて遊べる設定にしてあげてはどうか。
- ・Kの姿を探すとみんなの円の中に座っていた。とい
 うくらい、座っていなかったが今は座る時間がの
 びて、手遊びの音声模倣・行動模倣とも意欲が出
 てきた。



症例3 観察報告2

- ・ポーチで5、6人で遊んでいる時、先生に「そ
 こで何をしているのかな?みんなは着替えて座っ
 ているよ」と促される。他児は驚いた表情で慌
 てて部屋に入るが、本児だけは驚くこともなく、
 みんなが行動した後でポーチに取り残されてや
 んわりと部屋に入り、着替えを始めた。
- ・牛乳係の時、他の子は牛乳の数を気にして一生
 懸命数えているが本児は冷蔵庫にある牛乳をと
 にかく全部運ぶケースに入れている。「そんな
 一杯いらんよ」とか「もう、おおすぎ」と言わ
 れても牛乳を入れることを止めずに、戻した牛
 乳を再び何度もケースに入れる姿が見られた。

症例3 報告

〈観察によって示唆されたこと〉

- ・場面の理解の鈍さが考えられるかもしれない。
- ・ことばの裏に隠された相手の意図を組むことの
 未熟さが考えられる。ことばや行動だけの未熟
 さの問題なのか、社会性・コミュニケーション
 上の問題があるがゆえのことばや行動の未熟さ
 なのか・・・
- ・今回は担当の教諭と話す時間がなかったが保育
 の様子と家庭の様子をもう少し詳しく聞く必要
 を感じる。

症例3 (年中組、男児) 症状

- ・会話がなりたないことがある。ドン
 グリを採るではなく、ドングリを捕ま
 えろと表現する。
- ・話す時口の中につばが貯まりやすい
- ・しばしば集団活動から出て行くことが
 ある。
- ・いきなり、背後から抱きつくことがあっ
 た。
- ・些細なことで 他児を噛むことがあっ
 た。
- ・じっと座っていられないことがある。

症例4 年中組男児

母子分離時に、ぐずったり、床に寝ころぶ姿が見られる。しか
 し、母が立ち去ると、4分後には笑顔で教師と会話する。
 所持品の片づけは、1つ。1つ。指示を待っている。次に何を
 すれば良いのか、分かっているように見える。着替え、
 嫌がっていたが、砂場に行く為に着替える事を理解して時間
 はかかるが着替えるようになった。

実習生「どろんあそび、楽しかった?」

A 「いつも体操服ぬれてるし」・・・会話不成立

誰と誰と一緒に踊るかを話し合っている場面

A 立ち上がり

「しずかに! みんなでおどればいいよ!」・・・会
 話成立

他の部屋にいる渡辺先生にあげてきて・・・の指示
 理解と実行+ (時間はかかるができる)

〈所見〉 見通しを立ててあげることが大切。写真や絵で、自
 分でわかる手だてが必要。行動のスケジュールを使用するこ
 とが有効だろう。また、気が散りやすいようなので気が散ら
 ない工夫が必要。

症例3 観察報告1

- ・粗大・微細運動の遅れは観察時間中では
 特に観察されなかったが座る時間、先生
 の太股に自分の体を寝かせてよしかかる
 ことが長く見られた
 - 体幹の維持に問題がある可能性があるのか
 (?)
- ・集会の場で先生の隣に座り、男の先生の
 手や腕に常にかみついてた。唇で感
 触を楽しんだり、キスしたり、手や頬で
 すり寄っている姿が長く見られた。

療育専門家による 園での子供の評価について

- ・子供への対応
 - 客観的に子供を観察できる
 - 専門的立場から教師や保護者にアドバイス
 - 専門機関のネットワークを利用できる
- ・問題点
 - 観察者の力量により見方が変わる可能性
 - 経費がかかる